

2020年(令和2年)7月17日(金曜日)

物流の要求水準 高度化

そうした視点を基に生鮮品の事業モデルを再考する動きも少しずつ始まっている。生鮮食品流通のソリューションビジネスを展開するイーサポーターリンクの相原徹・取締役兼専務執行役員は、「従来のチェーンストアオペレーションが今後

も主流」と前置きした上で、量販店の政策が「全体店最適」から「個店最適」「地産地消」にかじを切りつつあると指摘する。

競争が激化する中、ビジネスモデルの見直しを迫られている。相原氏は「潮目の変化を実感する。コストを引き下げるには経路と時間の短縮が有効」と説明。この観点を踏まえると、究極的には運ばないことが消費者利益に最も適しているこ

とになる。いずれにせよ、スーパーの競争力の源泉は生鮮品であることに疑いは無い。しるぎを削る数多のライバルとの戦いを制するには、生鮮品を磨き上げることが最優先テーマとなる。コスト、リードタイム、鮮度、流通加工といった物流サービスへの要求レベルがますます高度化することも確かだ。